

## 鳥取県「令和の改新」県民会議（1月29日）議事録

（日時） 令和7年1月29日（水）9時30分から10時50分まで

（会場） ホテルニューオータニ鳥取 鶴の間（オンライン出席を含めたハイブリット方式）

### （櫻井政策戦略本部長）

おはようございます。本日は大変お忙しいところ御参集くださりまして心からお礼を申し上げます。ただいまから、鳥取県「令和の改新」県民会議を開催いたします。本日の司会を務めさせていただきます政策戦略本部長の櫻井でございます。どうぞよろしく願いいたします。冒頭、平井知事より御挨拶申し上げます。

### （平井鳥取県知事）

皆様、おはようございます。何かとお忙しい中、このようにお集まりをいただきまして、本当にありがとうございました。今日はオンラインも含めまして、会議を発足させていただくこととなりました。私たちが目指すべきは大化の改新になぞらえまして、令和の改新であります。ここ、鳥取県を基盤として今の政権が動き始めたわけでありまして。石破総理や赤澤大臣、あるいは青木官房副長官等々、そうした政治の中での中枢に今、入ってきた、それが山陰であり、鳥取県ということになり、そして、今、目指すのは楽しい日本という新しいスローガンの下に地方創生 2.0を動かしていこうと、人口減少に何とか歯止めをかけていこうと、こういうようなことであります。

実は、今年乙巳の年であります。これは「いっし」というふうにも読むわけですが、大化の改新のことは乙巳の変とも歴史上言います。乙巳の年、その年は60年に1回やってきますけれども、大きく世の中が動く年とも言われ、なぞらえているところであります。その運命的な年に私たちは人口減少を何とか食い止めて、女性や若者が住みやすい、働きやすい、そういうところを目指していく、そのために石破総理の御提唱になりますが、産・学・金・労・言・師・士、そして行政、官、そこに私たちは若者や女性、そうした地域活動も加えて発足をさせたいと考えまして、今日、新たな県民運動、新しい時代を描くビジョンづくり、行動をみんなそれぞれに行っていくことで課題を大きく解決し前進していく、そのための「令和の改新」県民会議を発足させることといたしたところであります。

御賛同いただきまして、今日は本当に各界の多くの方々にお越しをいただきました。馬野会長、岩崎会長、また、米原代表幹事、さらには栗原会長、そして、嶋沢会長等々、そうした産業界の各団体を代表する方々が一堂に来ていただきました。さらにこの労働組合連合からも代表を今日、送り込んでいただきましたし、行政側でも広田市長、羽場副市長等々、今日はオンラインも含めて各地とつなげながら議論を進めさせていただくことになりますが、市町村がキーパーソンになる、そういう流れだと思えます。そういう意味で一堂に今日、（参加）をお願いさせていただきました。

また、中島学長、あるいは山口先生、そして、私学を代表して石浦会長等、学の関係の方にも集っていただいたところであります。そして、今日は河本所長等々、金融界からもそれぞれ出席

をいただきました。吉岡社長、西畠社長、そして、坂口社長といった言論界の皆様もこの場に来ていただいております。また、石破総理、赤澤体制の中で1つ特徴がありますのは、福祉や医療、これをきちんと位置づけていく必要があるんじゃないかという考え方があります。そういう意味で松本会長、原会長をはじめ、医療や福祉の関係の皆様もここにお越しをいただきました。私どもとしては井中さんや鹿田さんなど女性、若者、あるいは地域の活動、これがこれからのキーになると思っていますので、今日はそうした方々にもお越しをいただいております。これからもアメリバ的にこの会は動かしていくべきだと思います。いろんな時の流れや時代の課題に即して様々な方々がつながり、絆を持って解決をしていく、それが鳥取スタイルだと思いますし、大都会では絶対にできない輪が今、この場に実現していると思います。

そういう意味で、私たちとしてぜひ新しい道をここ鳥取からつけていければと考えておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げたいと思います。乙巳の年に始めた私たちの運動だけに「一矢報いる」ように頑張りたいと思いますので、小さな鳥取の根性とパワーを出してまいりたいと思います。皆様、忌憚のない御意見を賜りまして、いろんな課題が一つ一つ解決されていく、鳥取県としても全面的に県政を挙げてこの運動を推し進めていき、皆様の声をしっかりと政策にも結びつけてまいることをお誓い申し上げたいと思います。よろしくお願いを申し上げます。

#### **（櫻井政策戦略本部長）**

ありがとうございました。それでは意見交換に移ります。恐縮ですが、以降着座にて失礼いたします。本日の流れですが、お手元資料に従いまして簡潔に事務局から一括して御説明をさせていただきます。その後、意見交換に移ります。まず、輝く鳥取創造本部長遠藤より御説明いたします。

#### **（遠藤輝く鳥取創造本部長）**

輝く鳥取創造本部長の遠藤でございます。資料をお願いいたします。最初、「日本創生に向けた人口戦略フォーラム in とっとり」を昨年11月末に開催いたしまして、とっとり宣言を発表いたしまして、鳥取から国民的運動をスタートさせたところでございます。フォーラムの中では石破総理から、重要なのは職場・地域の意識・構造の変革であり、若者・女性にとって魅力ある働き方・職場づくり、これを本気で考える必要があるといった問題提起をいただいたところでございます。

続いて次のページをお願いいたします。本県の人口の状況でございます。1988年の61万6,000人強というのをピークに減少に転じております。今年1月の推計人口は53万人を割り込んだというところでございます。一方で、地方創生の契機となりました2014年の日本創生会議の人口推計と比較いたしますと、移住定住や子育ての施策などが奏功しておりまして、1万3,000人ほど上振れしているというところでございます。一方、人口減少幅は拡大傾向でありまして、2050年の国の推計人口は40万6,000人といたるところでございます。近い未来に向けましてどう考えていくか、しっかり考えていく必要があると考えております。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて3ページを御覧ください。石破政権において、昨年12月に地方創生2.0の基本的な考え方が決定されました。人や企業の地方分散、付加価値創出型の新しい地方経済の創出をはじめとした5本柱で今後、基本構想を策定するということになっております。その中で、地方の役割として産官学金労言師士など地域のステークホルダーが知恵を出し合って自らが考え行動に起こしていくということが位置づけられております。4ページを御覧ください。先週、24日に開会いたしました通常国会の総理の施政方針演説でございます。楽しい日本を実現するための政策の核心は、地方創生2.0である。多極分散型の多様な経済社会を構築する。また、アンコンシャス・バイアスを解消するといったことを力強く述べられております。

5ページを御覧ください。新しい地方創生交付金、こちら自由度の高い交付金として創設されて、当初予算と補正予算を合わせて3,000億円が確保されております。若者・女性に選ばれる魅力ある地域づくり、買物、医療、交通など日常生活に不可欠なサービスの維持向上、農林水産業、地域産業の活性化、観光産業の高付加価値化など、地域の取組を柔軟に後押しするものとされております。

本日は各界の課題などを共有させていただいて、今後は実務者レベルの幹事会を設けるなど、知恵を出し合いまして、新地方創生交付金の実施計画の作成につなげてまいりたいと考えております。説明は以上です。

それでは、あらかじめお伝えした順序で指名をさせていただきたいと存じます。限られた時間の中で多くの方に御発言いただきたいと存じますので、発言時間は2分とさせていただいております。それでは鳥取県商工会連合会馬野会長よろしく申し上げます。

**(馬野鳥取県商工会連合会長)**

商工会連合会の馬野です。よろしく申し上げます。商工会は何といたっても、地域密着の総合経済団体でございます。県内に4,000以上の会員事業所がありまして、働かれる方も合わせると1万人以上の人材の宝庫とも言えると思います。特長といたしましては、住民の皆さんと距離が近いところで活動しておりまして、行政の方、金融機関とも日頃から連携を取っております。経営者の皆さんも地元愛の強い方が多く、地方創生にはこうしたコネクション、あるいは雇用の受皿を生かしていけたらというふうに思っております。

私の周りでも、以前に比べて、U I Jターンで田舎暮らしをされながら起業をされたり、事業所で勤められる方が増えたように思います。都会に比べますと収入等は少ないかもしれませんが、お金の替えられない価値を、魅力を感じられておられる方がやはり増えている。そういったことが、やはり地方創生のヒントなのかなと思っております。鳥取で働き、鳥取で暮らす、そういったことの魅力づくり、あるいは魅力の発信、そういったことがもう少しこれから必要だと思いますので、今後、皆さんと連携を取って力を入れていきたいと思っております。頑張りましょう。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて鳥取県中小企業団体中央会岩崎会長お願いいたします。

**(岩崎鳥取県中小企業団体中央会長)**

岩崎でございます。お世話になります。今、うちの会社というか、うちの業界も労働集約型の企業でございますので、社員が高齢者。足りないので、外国人を60何人もうちの会社ですら入れております。とても大変な話で、働く女性に選ばれる地方というのをつくってほしいのですけども、なかなかそういうことになっておりません。それで、昨日テレビ見ておりましたら、大学・専門学校が1年に700ぐらいなくなるっていう話が出ておりました、そんなことになるのかなと思って、鳥取の学校、大学を守るためにも、もう一度、大学やそういうものの学科の見直しをして、魅力持たせてしないと、鳥取市にも今、2つありますし、米子にもありますし、倉吉にもありますけど、なくなれば大変なことになるので、ぜひ、それをお願いしたいというのと、知事さんにはとても頑張っていていただいておりました、子育て支援やいろんなことをしていただいておりますが、家賃が安い、通勤時間が短いというようなコマースを、もう少ししていただいたらありがたいと思っております。

それともう1つは、基幹産業がないので企業誘致をしていただきたいですけど、なかなか努力していただいているようですけど、できないので、知事どうでしょう。防災省を連れてきたらどうなるでしょう、鳥取に。石破さんが、たまたまいますし、平井さんに頑張っていて、鳥取に防災省を持ってきて、鳥取は地震がないですから、東京も直下型が起りそうですし、山陽道も危ないので、ぜひ、鳥取に防災省を誘致したらどうでしょう。実は、そうやって今度言っていることと思っておりますけども、知事からもよろしく申し上げます。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて鳥取県経済同友会米原代表幹事お願いいたします。

**(米原鳥取県経済同友会代表幹事)**

経済同友会です。発言時間が短いので、私のほうからは会の進め方について希望だけ申し上げたいと思います。今回、我々の会の内部でこういったことについて具体的な議論ができておりません。同じ状況の方もいらっしゃるかと思いますけども、この場で私個人の意見を言うというよりも、できれば、期限を定めていただければ内部で議論をしてまとめて提出をしたいと思っております。また、そういった形の各団体、各社さん等の意見についても、じっくり見てみたいと思っておりますので、そういう形で皆さんの意見も、フィードバックしていただいて、議論を深めるという、そういう形で進めていただければと思います。私からは以上です。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて鳥取県観光連盟小谷会長お願いいたします。

#### (小谷鳥取県観光連盟会長)

県の観光連盟の小谷でございます。リモートで失礼いたします。私のほうからは、観光産業の活性化ということで、これが地方の経済とか、雇用の影響が大きいわけですし、目ぼしい産業に乏しい鳥取県では、やはり基幹産業の1つだろうと認識しております。ただ、観光産業の特長というか、宿命は世間とは逆のカレンダーで仕事が回っていくということと、繁閑差が大きいということでもあります。この点に着目して、地方創生に対して2つほど提言させていただきたいと思っております。

1つ目は、逆カレンダーゆえに雇用面での人材の確保であります。人口減少が進むということは旅行需要も減退していきます。そういうところで耐えるためには、やはり地域、あるいは施設の高付加価値というのが必須になります。言わば、5,000 円のを1万円で売ると、それでお客様には1万3,000 円ぐらいの価値あるよねって思ってもらえることでもあります。そのためには、やはり戦略的な価格転嫁が必要で、高付加価値に対するソフト、ハード両方ありますが、どちらも設備や人材の投資を伴うわけで、こういうところでしっかりしていけないといけない。それで、受けるほうも収益計画を立てて、実行して、ちゃんとフォローアップするとか、そういう成果を検証する。そういった取組を、PDCAを回していけないと、本当に回していけないのではないかと考えています。

2つ目は閑散期についてです。実は観光産業は年間の半分ぐらいは閑散期です。繁忙期は全国どこも繁忙なので、閑散期にどれだけ集客できるかということが観光産業の生き残りのキーになります。そのためには、集客の平準化が必要でありまして、例えば、今の時期ですと本当の閑散期でございます。しかし、松葉ガニはじめ、おいしいものたくさんあると、こんな時期であります。過去の閑散期では、例えばコロナのときに、We Loveキャンペーンとかという支援策いただきました。これはかなり有効だったなど。今から思えばコロナだから有効だったというのではなくて、マイクロツーリズムというものがこのときに見直され、効果が実証されてきているのではないかと思います。県内、隣県、中国ブロックとか、そういうところで潜在的なニーズが必ずあると思うので、そういうところの閑散期の対策というものを打っていけないと思っております。以上でございます。

#### (櫻井政策戦略本部長)

続いて鳥取県農業協同組合中央会栗原会長お願いいたします。

#### (栗原鳥取県農業協同組合中央会代表理事会長)

我々、JAグループとしましては、視点が異なるかもしれませんが、職場としては生産現場だという認識をしておりまして、最初の地方創生総合戦略が始まった頃から、いわゆる鳥取県の1千億円達成プランと連動しまして、JA版の地方創生総合戦略を5年単位で立てて、今年が最終年になります。我々としては、農業振興イコール地方創生と理解をしておりまして、その中で、いかにこの移住定住者を増やすかということで、新規就農者、担い手、そして雇用労働者、働き手、この目標人数も定めてやってきました。

しかし、生産品目の面ではスイカ等成果が上がってきておるわけですが、この新規就農者なり、雇用者の人数の検証・総括の辺ができてないというのを反省しておるわけですが、今後いかにこの新規就農者を増やすかという点について、技術対策なり資金対策は対応ができていると認識はしておりますが、いわゆる外国人を含むこの住宅環境の整備が少し遅れていると認識をしておるわけでありますので、その辺をひっくるめて1つのパッケージにして、いわゆるワンストップで対応していくということが必要ではないかと思っております。

その点、農業経営・就農支援センターというのが鳥取県にはできておりますから、そこを軸にして、核にして、さらにそのセンターを活性化する、我々JAグループもそこを利用するという事で、特にこのセンターには先ほどもありましたように、この鳥取県の魅力というものを県外へ情報発信をする、さらに、そういうところに力を入れていただきたいと、先ほどもありました。当然、我々としまでも自助努力して、生産部中心に受入体制のほうは万全を期していきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

#### **(櫻井政策戦略本部長)**

続いて鳥取県森林組合連合会嶋沢会長よろしく申し上げます。

#### **(嶋沢鳥取県森林組合連合会長)**

森林組合連合会の嶋沢でございます。今、本当に森林林業に対してカーボンニュートラル、国土強靱化、花粉対策、そしてネイチャーポジティブとかそういう環境面、もう1つは、やはり、経済面では世界情勢、それから為替相場に影響されない国産材の増産・安定供給というものが期待が高まっておるということでございます。ちょうど今、戦後の高度経済成長期に植えたスギを中心とした人工林、ちょうど利用期に達しておるということでございます。できれば、これを切って、使って、植えて、育てるという循環林業、これを確立していきたいと思っております。いわゆる皆伐再造林でございます。

この皆伐再造林の推進に当たってはやはり木材需要、それから木材価格の低迷と、そして、担い手不足ということが、いろいろ課題はあるわけですが、そうはいっても、すぐできませんので、取りあえず組合自らコストの削減とか、それから労働安全対策と賃上げ、そういう労働環境の改善に取り組んでいきたいと思っております。そして、この循環林業のエンジンになるのがやっぱり木材需要です。今後、一番木造率の高い住宅、これが減少傾向に多分なるということはもう間違いないというふうに思います。そういう中で、やはり木造率の低い非木造ですね、木造非住宅とか、それから中高層建築物、これを何とか木造でということで、首都圏周辺ではそういうことが今、ゼネコン中心に出ておりますけど、地方にも少しずつでもそういうことができたならなと希望しております。

担い手確保対策につきましては、若者、女性に選ばれる職場にしていきたいと考えております。その成果の一例として東部森林組合の例を申しますと、昨年度は女性2名が入ってきたと、そして、7年度には新規の高校卒業生3名、大学生3名ということで入ってくる予定でございます。

今後とも皆伐再造林を中心に事業展開しながら県民の生活、経済活動の礎であります森林、そ

の森林を守る林業ということで、これを成長産業化、持っていきながら地方創生にもつなげていきたいと考えております。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて広田倉吉市長をお願いします。

**(広田倉吉市長)**

倉吉市長の広田です。本日はよろしくお願ひいたします。倉吉市としましては、地方創生の取組といたしましては令和5年度から「ひとを育てまちを育てる暮らしよし倉吉プロジェクト」ということで在京の民間企業さんが開発された人材育成プログラムを利用しながら、また、国の交付金も倉吉市としては非常に大きな事業額で今、取組を進めているところでございます。今後、地域を担う人材を育成するとともに、地域の魅力発信ですとか、デジタル基盤整備を行って地域に仕事や人の流れをつくると、人口減少対策、また、地域の活性化につなげていきたいという取組を進めているところであります。

先方、前段で御報告もありました石破総理がおっしゃっているように、女性の活躍ができる、そういった働き方改革もひっくるめた取組もこういったプログラムの中で進めているところであります。中山間地対策としては、県のほうの御協力も得ながら買物環境の確保、地域公共交通の再編といえますか、乗り合いタクシーの導入と併せた地域公共交通の再編にも取り組んでいるところであります。また、地元経済界、商工会議所等もこの人口減少対策が喫緊の課題だということでもしっかり取り組みたいということもございまして、経済界と一緒にU I J ターンの推進、あるいは人材確保の推進には経済界と一緒に今、取り組んでいるところでありますので、このたびのこの「令和の改新」県民会議等でまた、いろんな各界の情報共有図りながらいろんな取組を今後も進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひをいたします。

**(櫻井政策戦略本部長)**

ありがとうございました。続いて宮脇湯梨浜町長をお願いします。

**(宮脇湯梨浜町長)**

湯梨浜町長の宮脇でございます。本日はありがとうございます。先ほど来、お話をいたしましたように、総理大臣は30年前の地方をつくるということで、人口あるいは若者・女性に力を入れるということございました。それで、アンコンシャス・バイアスとか、本当に地方の住民として、私たちが子どもの親として考えていかないこともたくさんあるというふうに思っております。それで、1つは経済的な面で豊かにするというのももちろんありますけれども、その一方でやっぱり文化辺りのこともきっちりやっていきたいという気持ちも強く持っております。1つ注目しておりますのは文化振興財団が、まちのホールを持っているところと連携しながらやっというここと、いろんな取組を考えていただいたりしております、そういうこともとてもありがたいことと思っております。

もう1つは、大きなことを、何か、この地方創生を、この際、一生懸命頑張って、例えば私のまちで言いますと、産業と観光と結び付けたようなものやろうと考えたときに、考える手法が分からないような面もあって、その辺を県辺りにも相談してやりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。範囲をやっぱり、若者にも拡大されたということは、とてもいいことだと思っております。若者会議、湯梨浜町が始めて3年目になりますけども、その成果が地方の中、地域の中で表れている、活性化に役立っているという事例もございます。以上でございます。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて手嶋北栄町長をお願いします。

**(手嶋北栄町長)**

北栄町長手嶋でございます。まずはこの会の趣旨に賛同させていただきたいと思えます。この地方創生のためにやはり必要なのは、人口減少を食い止めるということになろうかと思えます。そのためには出ていく人を少なくしていく、今で言いますと、例えば、なくなってしまった病院や店を再建していこうということになろうかと思えます。そして、同時に入ってくる人、訪れる人を多くしていこうということになろうかと思えます。そのためには観光の拠点の整備だったり、あるいは働く場の拠点の整備であったり、そういうことが必要になってくると思えます。

そうした中で、今回とても自由度の高い、第2世代交付金というものが出ましたので、何とかいろんな知恵を絞って、活用していきたいと思っております。そういう意味でもこの会議の中でいろいろ情報交換をさせていただきながらやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて、中田日吉津村長よろしくお願いします。

**(中田日吉津村長)**

おはようございます。日吉津村長の中田でございます。日吉津村におきましては、この地方創生、もう一度しっかり取り組んでいこうということで、昨年9月に地方創生の支援マネージャーということでアサノさんという女性の方に来ていただきました。茅ヶ崎のほうでまちづくりをしておられた方ですけども、お越しをいただいて、今こちらに移り住んでいただいて、地域の魅力発進でありますとか、特産品開発などをやっていこうということで、一緒に取り組んでいるところであります。年末それから年始にはアンテナショップ東京の新橋館のほうに使わせていただいて、ふるさと納税のPRなんかもしていただいたということでありまして、年明けには村内の企業で菌床栽培、茸の菌床栽培なんかをやっとられる「伯耆のきのこ」というところがあるんですけども、そちらの社員の方も一緒に上京していただきまして、6次化した商品などPRを一緒にさせていただいたということでもあります。そうした民間の方々との連携、間に入っていたりしながら、地方創生進めていきたいというふうに思っています。



本日、各界いろいろな方々、この会には御参加をいただいているということですので、ぜひとも皆様方とこの連携を深めていきながら、本村といたしましてもこの地域の魅力発信でありますとか、地域のものを外に売っていく取組等、力を入れて頑張ってもらいたいと思いますので、皆様の御協力をぜひともよろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

**（櫻井政策戦略本部長）**

続いて白石江府町長お願ひします。

**（白石江府町長）**

おはようございます。江府町長の白石でございます。御発言の機会いただき、感謝いたします。我が町におきましても、人口減少対策として様々な施策に取り組んでおります。石破総理が提唱される地方創生2.0に、とても期待しております。先日、石破総理の施政方針演説などに対する代表質問がございました。その答弁の中で、新しい地方創生交付金に対して、石破総理は、地域の意欲的な取組を柔軟に後押しできるようにすると発言されました。以前から住民の皆さんを巻き込んで計画を進めてきました我が町に取りまして、この発言はとても心強いものでございました。

しかしながら、国に交付金の申請を相談したところ、整備予定の施設に係る正式な見積書、平面図等の資料が必須であると言われました。とても事務的で縛りが強いと感じたところです。大きなプロジェクトに取り組む場合、自治体においては財源の確保はとても重要でございます。新しい地方創生交付金につきましては、申請手続はもちろんのこと、内容の審査につきましても、国の理論ではなく、地域の自主性と創意工夫、熱意を尊重した運用を切に願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。私からは以上です。

**（櫻井政策戦略本部長）**

続いて、鳥取大学中島学長お願ひします。

**（中島鳥取大学学長）**

鳥大の中島でございます。鳥取大学では現在、鳥取県それから県内の全市町村、それから産業界、金融機関が集まって地域の課題を解決したり、人材育成、地元定着の取組、あるいはリカレント教育等について情報交換したり協議する場として、鳥取地域連携プラットフォームの設置の準備を進めているところであります。プラットフォームの牽引役となるのは地域未来共創センターというセンターで、これは文科省の令和7年度予算でこの4月に新設する予定になっております。このセンターには研究推進部門、人材育成部門、人材定着部門の3部門がありまして、体制強化のために今回教員2名と、それから地域連携コーディネーター数名を採用することとしております。

これらの活動には学生を活用しまして、若者に選ばれる地域づくり、それから若者定着に結びつける取組としていきたいと思っております。また、人材育成部門におけるリカレント教育につ

きましては、社会人の、大学院の受入れとか、農業や建設業の分野で専門性の高いリカレントプログラムの開校などはこれまで実績がございますが、一方で、経営者層への教育とか、あるいは産業振興への関与の面ではほとんど実績がございません。このため、経営者層の意識改革やあらゆる層の未来育成環境、そういったものを準備するために文科省のリカレント教育システム構築支援事業、これに取り組む予定にしております。

若者、女性、移住者が学び、成長しながら活躍できるような、そんな魅力的な環境を創出しまして、地域経済の活性化の好循環を目指したい。鳥取大学としてもこの地域未来共創センターを中心に、若者・女性に選ばれる地域づくりに向けて、本日発足しました県民会議と一緒に頑張って積極的に取り組んでいきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。私からは以上です。

#### **(櫻井政策戦略本部長)**

続いて、米子工業高等専門学校の山口校長お願ひいたします

#### **(山口米子工業高等専門学校長)**

米子高専の山口です。地方創生を促進するための人材育成を担う教育機関の責任は非常に大きいと考えてます。この発表のように、地域を発展させるためには教育、人材育成は必要不可欠と思っております。実は、日本財団が都道府県の18歳の男女を対象にした意識調査があるんですが、その中では、育った地域で将来暮らしたいかという質問に対して、鳥取県では48%は暮らしたい、あるいはどちらかといえば暮らしたいとこう回答します。

ところが一方、暮らしたい地域で将来の選択肢が多いですかという質問に対しては、鳥取県は、27%が暮らしたい、選択肢が多いと回答していて、この27%は都道府県の中では最下位なんです。だから、鳥取県で暮らしたいけど、将来の選択肢が多くないというのが若い方の意識となっていて、それを踏まえると、我々教育機関としては、高専では専門知識を教えるのですが、それだけではなくて、この選択肢を増やせるような新たな産業や事業を起こせるような、人材の育成も必要だと考えてます。それで、我々は今、起業家育成、あるいはPPM教育というふうなもので、地域の課題を企業の方と一緒に解決する、そういう取組を行ってます。

また、それからビジネスプランコンテストというのは結構あるんですが、その中で、例えば、カラスから農作物を守る装置を開発して、農林水産大臣賞をいただきました。それから人の動きをスマホで撮影してAIが最適な動きをアドバイスするっていう、そういうアプリの開発、こういうのも提案をして文部科学大臣賞を受賞しました。こういうふうな活動を通じて新たな産業、あるいは事業が生まれる、まさにこの地方創生できる人材の育成、これに努めています。今回の地方創生2.0の中にも、付加があってもなくてもいいと思うんですが、価値創出型の新しい地方経済の創生、これに貢献できるような人材育成に努めてまいりたいと考えています。以上です。

#### **(櫻井政策戦略本部長)**

続いて鳥取県私立学校協会石浦会長お願ひいたします。

**(石浦鳥取県私立学校協会会長)**

鳥取県私立協会会長の石浦です。県内の私立学校は、県外の生徒、海外の生徒を積極的に鳥取県に呼び込んでやっているところであります。特に県外の生徒たちは、鳥取県というところを知らないことがありますので、まずそこからお話をして、そして鳥取県の魅力を十分にお話ししながら、子どもだけじゃなくて保護者の方も鳥取県に子ども預けたいということで、現在、220名の生徒が私学に来ています。聞いたところ、1校ではもう今年入学する生徒で150名が県外から来ると。こういうふうには鳥取県に非常に魅力があると、それで、ここに来て頑張っていきたいと、食材もおいしいし、地産地消、そういうものも子どもたちに食べてもらう、これは朝昼晩食べさせないといけない、非常に大変なところはたくさんあるんですけど、そして寮に入ってやってみよう。

実は選抜大会に出る子どもたちが昨年12月に知事のところに御挨拶に行ったときに、子どもたちが非常に喜んだ、知事の言葉が「鳥取が第二のふるさとだと思ってください」と、「鳥取県中がみんなを応援してるから」というあの言葉が子どもたちにすごく浸透して、すごく嬉しかったと。やっぱりよそから来とるけど、そういう言葉1つで子どもたちはすごく変わるというのを非常に感じました。鳥取の地元の大学、専門学校、短大、そういうところに残って、そして次のここです。どう働きをするかとか、そういうことも判断できるようにしっかりしていかなければいけないというのはあります。

鳥取に来てよかったと言ってもらうためには、今、ここに県外の子が来ているということが私たちにとってもチャンスなので、この子たちをどう生かして鳥取県に残すか、これは私たちだけじゃなくて県民の人たちにも力を借りて、そしてやっぱりここにこの魅力があると、鳥取に残りたいと言え、保護者まで、いや、このまま鳥取県に住もうかなと、こういうことも出てます。そういうこともぜひこれからやっていきたいと思えます。

ちょっと1つ、外れますが、日本語学校が、鳥取城北日本語学校あるんですけど、そこは今年も72名の生徒が、外国から来てくれます。この子たちがいかに働いて、そしてその子たちのほとんどが日本に残って、日本で結婚して、日本で生きていきたいということを言ってますので、これにつきましても非常に難しいハードルはたくさんあるんですけど、これも皆さんと力合わせてやっていきたいと思ってますので、何卒よろしくお願ひしたいと思えます。以上です。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて日本銀行鳥取事務所河本所長お願ひします。

**(河本日本銀行鳥取事務所長)**

日本銀行鳥取事務所の河本と申します。金融面から2点申し上げたいと思えます。1点目は、日本銀行の金融政策についてです。皆様ご存知のとおり、日本銀行では今月24日に政策金利を0.5%に引き上げることを決定いたしました。金利引上げ、すなわち金融引締めかといいますと、実質金利、名目金利から予想物価上昇率を引いたものですが、実質金利は引き続きマイナス圏内と緩和的な金融環境に変わりはなく、金融面から経済活動を引き続きサポートしていきたいと考

えております。

2点目は、金融機関における企業支援を通じた地域活性化の取り組みです。当地におきましても人口減少、高齢化が進む下、先ほどから皆様の御意見、御発言にもありましたとおり、人手不足や後継者がいないといった経営課題に直面している企業が少なくない状況でございます。こうした中、金融機関においては企業への融資のみならず、コンサルティング業務等を通じてITを活用した業務効率化やM&A、人材マッチングなど企業の課題解決のサポートに注力しているところでございます。日本銀行といたしましても、県民会議と連携しつつ、こうした金融機関の取り組みを後押ししていきたいと考えております。

最後に金融面以外から1点。私ども日本銀行では、四半期ごとに地域の経済状況を報告する会議を開催しております。その中で、先日、秋田県において最近の米価の回復を受けまして、米の農家が儲かっているという話がありました。私は昨年6月に鳥取県に着任いたしましたけれども、鳥取県においてカニですとか、あと、スイカ、柿とか、一次産品が非常に豊かであるということに驚いたところでございます。先ほど岩崎会長から新しい産業を持ち込むのはなかなか難しいという話があったのですが、鳥取県には魅力あるいろいろな産業があるのではないかと考えております。まずはそうした魅力ある財産をより有効に活用するということが非常に大事なことではないかと考えたところでございます。私からは以上でございます。

#### **(櫻井政策戦略本部長)**

続いて、日本労働組合総連合会鳥取県連合会の松本副事務局長様お願いします。

#### **(松本日本労働組合総連合会鳥取県連合会副事務局長)**

連合鳥取の松本でございます。労働組合としては、今まさに今年も春季生活闘争の取組を始めたところでございます。例年、ベースアップ、あるいは賃金の定期昇給の引き上げも求めるんですけども、今年は特に地域間格差、そして企業間格差というものが昨年はっきりしてきたということもありますので、その引き上げも今回求めることとしております。その引き上げを実現するためにもまずは価格転嫁をきちんと反映をさせて、その原資でもって賃金の引き上げをなしていこうと考えております。

ですが、残念ながら、昨年、公正取引委員会や中小企業庁の調査によりますと労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針の認知度が約5割、そして、平均的な価格転嫁率も5割に、とどまっております。指針を知っている企業様ほど、価格転嫁の率が高く、価格転嫁率の引き上げ率の反映度も高いという調査結果が出ております。ここら辺りを私ども労働組合としてもしっかりと周知を広げ、賃上げの実現ということを成し遂げたいと考えております。そのことは北栄町の手嶋町長も触れていただきましたけれども、人口流出の歯止めであるとか、あるいはUターンの促進、そういうものにもつなげていきたいと考えておりますし、また、最低賃金の引き上げということを実現することを通して県民誰もが安心して暮らせる環境というものもぜひ成し遂げたいと思っております。

もう1つ、食料品、あるいは農産物の高騰が日々、ニュースにも出ておるといことでありま

すけれども、原材料、あるいは資材価格の高騰も一方であるということは、農業県に暮らす私たちはとても肌感覚で分かりやすい部分だと思っております。そういったところも反映をさせまして、県民、いいものはそれなりのお金を払ってでも買うものという、そういう部分での理解促進も一方では広げていきたいと思っております。よろしく願いをいたします。以上です。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて、新日本海新聞社吉岡代表取締役社長お願いいたします。

**(吉岡新日本海新聞社代表取締役社長)**

日本海新聞の吉岡です。今日はお招きありがとうございます。鉄道に絞ってお話します。日本海新聞では鳥取の鉄道 120 年、今、見つめなおす鉄道への思いと題して、2022 年から 24 年まで計 66 回連載を掲載しました。また、23 年 5 月には石破氏に聞く地方鉄道の未来という大型インタビューも掲載しています。鉄道の見直しが鳥取再生の 1 つの鍵になるのではないかと考えています。

一方、1971 年に決定された山陰新幹線基本構想は半世紀以上たっても一步の進展もありません。昨年、秋田市に出張しました。秋田の駅前の寂しさ、商店街の衰退は想像以上でありました。秋田新幹線は 1997 年の開業です。当時の人口は 120 万、現在の人口は 90 万人を切っています。30 万人の減少であります。新幹線が人口減少に歯止めをかける切り札にはなりません。秋田の人に聞いたところでは、逆に仙台や東京が近くなることで定住人口が流出しているということでした。

一方、鳥取県は 1988 年の 60 万人をピークに現在、53 万人と 13%、8 万人程度の減少にとどまっています。伯備線の新型車両やくもは日本鉄道賞で大賞を受賞して全国の注目を集めています。因美線でも車両更新時期となっている智頭急行のスーパーはくとのハイブリッド新型車両の導入が間近と聞いています。鳥取駅前の再開発の早期実現、若桜鉄道の活用など、交流人口を増やす魅力ある地域づくりを急ぐ必要があると考えています。時間はあまりないと思います。待たなしです。以上です。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて、日本海テレビジョン放送西畠代表取締役社長お願いいたします。

**(西畠日本海テレビジョン放送代表取締役社長)**

ありがとうございます。地方テレビ局と申しますのは、そのエリア内に向けて、情報を迅速・的確に発信するというところで、総務省から国民の財産である電波をお預かりしているという立場でございます。山陰におきましては、当然、私どもあるいは山陰放送さん、T S K さん含めて、鳥取・島根でどのような情報を皆さんにお伝えしていくかということですが、いずれもエリア内に向けた活用だけでは、皆さんの御存じのとおり、今のテレビ局の状況を踏まえて考えても、だんだん立ち行かなくなっております。これからの私どもの課題としては、エリア外に向けて、エリア内の情報をいかに発信できるのかということが鍵になってくるのではないかと

考えております。

その意味で、これまで皆さんが、縷々(るる)お話になりました観光であったり、移住定住であったり、その他もろもろのことで、人をこのエリアにいかに呼び込むか、お金をいかに呼び込むかということにつきましては、まさに私どもがこれから考えていかなければならないことと一致していける、ウィン・ウインの関係でやっていけるということであろうと思います。私どもは私どものコンテンツを生かして、インターネット、SNS、その他新しいメディアをどんどんどんどん活用して外に向けて、鳥取のよさ、すばらしさというのを発信してまいりたいと思います。

その意味では皆さんと手を携えてやっていかねばというふうに考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて山陰放送坂口代表取締役社長お願いします。

**(坂口山陰放送代表取締役社長)**

山陰放送の坂口と申します。ローカル局の役割については今、西嶋社長がおっしゃったとおりでございます。我々は地方に情報を提供するだけではなく、全国へ、世界へ発信をどうやって行っていか。そして、魅力ある地方づくり、地方創生を、協力していくのが我々の役目だと理解しております。

側面が変わりますが、先日、国会開会のときに、ちょうど取材がありまして、石破総理とお会いすることができました。その折、時間がありましたので、政府四演説というのが所信表明演説から始まり、最後は赤澤大臣の所信表明演説、これを聞かせていただきました。そのときに非常に感じたのが、日本は明治以降、富国強兵、そして戦後は経済での国づくり、今度は楽しい日本ということで、これは人の心に、1人1人の心に寄り添った満足感であり、初めてものから心へのチェンジを石破総理はされたのではないかなと非常に感じました。

やはり我々がこのエリアが選ばれるためには、まず、特色のある日本を、鳥取をつくっていかなければいけないであろうということを非常に強く強調されたのが分かります。1人1人の心に寄り添った地方創生を我々はすべきではないかということを非常に感じました。やはり地方間競争を我々はやるべきなんです。1つ1つのものが自己満足で終わるような地方創生では駄目です。みんなから外国から、日本の皆さんから選ばれるまちづくり、国づくり、地域づくりをしていかなければいけません。自己満足で終わるような地方創生では、やはり選ばれる鳥取にはならないと思います。特色をもっと出していきましょう。そして、心に寄り添ったまちづくり、そして特色のあるまちづくりを我々は進めるべきではないかというこの2点を感じました。以上です。

**(櫻井政策戦略本部長)**

続いて鳥取県社会福祉協議会藤井会長お願いいたします。

**(藤井鳥取県社会福祉協議会長)**

福祉関係者としては、安心して暮らせる生活環境づくりに力を注ぎたいという強い思いがあります。そしてお願いとしては、1人1人が地域のために、もう一歩考えて、踏み出していただきたい。そして、それが活力を生み出す社会の基盤につながると思っております。これは都市部も中山間地域も同じだと思っております。また、医療現場とか、保育現場、介護現場、そういったところの充足、あるいは質の向上、さらには地域の支え合いがなければ、安心して働くことができ、子育てができる社会とはならない。そして、そのことが経済の好循環につながる、それが真に不可欠なことだと考えております。

ただ、例えば、福祉現場で言えば、県や市町村、いろいろと努力してもらっていますが、人材の確保は大きな課題でありまして、給与の水準を含めて関係者で努力はしておりますけれど、ぜひ、今日参加の皆さん方にも応援していただきたいと思っております。また、先ほど石浦私学協会会長さんからもお話がありましたが、私も私学法人の理事長もやっております、県立学校でふるさと教育、非常に取り組んでいらっしゃるんですけど、私学のほうでもやっぱり地域とともにある学校である、やはり地域立の学校というイメージを持っておりまして、将来のこの国、この地域を支えるのはあなたたちだということを生徒たちの意識を醸成させていただき、そういう思いを持っております。以上です。

#### **（櫻井政策戦略本部長）**

続いて若者活躍局鹿田様をお願いします。

#### **（鹿田若者活躍局メンバー）**

おはようございます。鳥取県内で役職をお持ちの皆さんの中で私が話して良いものかと思いつながら、この場に同席させていただいています。若者活躍局のメンバーの鹿田と申します。簡単に自己紹介させていただくと、現在34歳でコロナを機に家族と一緒に鳥取へ移住してきました。私は鳥取市出身でUターンとなりますが、妻は山口県の萩市出身なので、彼女にとってはIターンという形になるかなと思っています。現在、仕事は東京の企業に在籍し、人事業務を担当しております。ほぼフルリモートで働いており、2～3か月に1回東京に行くといった形で仕事をさせてもらっています。会社のほうでは、兼業も解禁されていますので、鳥取市内の企業の人事サポート、事業計画策定のサポートをさせていただいています。何か鳥取の力になればなと思い、関わらせていただいています。

先日開催された「日本創生に向けた人口戦略フォーラム」の流れで呼びいただいているかなと思っていますので、あの場はなんとかあったのかなと思っています。若者活躍局のメンバーとして呼びいただいているので、若者活躍局の活動について御紹介したいなと思っています。メンバー構成としては高校生・大学生・35歳以下の社会人で活動をしています。様々な議論をしながら政策提言だったり、プロジェクトを自ら企画し、街中でイベントを実施したりしています。私が入っているプロジェクトでは、中学生・高校生が自由に集まる場が鳥取は少ないんじゃないかという課題設定を高校生中心で行ってくれ、中学生・高校生が自由に集まれる場所「Heart Cafe」を企画してくれまして、既に鳥取市では3回ほど開催をさせていただいています。

毎回 20 人～30 人ぐらいの中・高校生が集まり、ボードゲームをしたり、ボードゲームをきっかけに勉強のこと、学校で流行っていること、進学のことを話す交流の場が生まれています。

今週末には米子市法勝寺にある「HARI」というカフェで開催させていただくことになっています。また、鳥取市内でも、もう 1 回やろうと高校生発案で準備してくれています。34 歳の私には無いいろんな考え、いろんな価値観を持って、鳥取を元気にしていきたいと思ってくださると感じられ、一緒に活動しながらうれしいです。逆に、彼女、彼らからは、若者活躍局で様々な大人と会話することができて、鳥取にも面白い大人がたくさんいると言ってきて学生に対しても何か貢献ができていのかと思っているところではあります。

先ほど、アンコンシャス・バイアスに言及されている方がいらっしゃいました。僕は、アンコンシャス・バイアスがそれぞれにあるのは当然だと思っています。今までの様々な経験から価値観が生まれているのでアンコンシャス・バイアスは誰にでもあると思っています。ただ、アンコンシャス・バイアスがあることを認識し、常に情報をアップデートしながら更新していくことが非常に大事だと考えています。私もあくまでも若者 1 人の立場でしかないのです、私の意見が若者全ての意見じゃないと思っています。私もいろんな場に参加させてもらっていますが、町なかには足を運び、中・高校生、大学生、20 代、30 代で働いている皆さんがどんなことを考えているのかということを知りながら、情報を常にアップデートしていき、政策や企業の活動に落とし込んでいただければなと思っています。

先日、東京に行く機会があり、鳥取市出身の同級生に会ってきました。友達はいつか鳥取に戻ってきたいと言っていました。じゃあ、何で戻ってこないのって聞いたところ、仕事がないからと回答が返ってきました。これは、アンコンシャス・バイアスだと私は思っています。鳥取には魅力ある仕事があると思っています。ただ、先ほど高専の山口校長からありましたが、鳥取には魅力的な仕事がないと思込んでしまっているんだと思います。これこそ、アンコンシャス・バイアスだと思っています。東京や大阪といった都会と比べて、魅力的な仕事はないって思っているんですね。しっかりとこちらから、鳥取県に戻りたいと思っている人であったりとか、鳥取で活躍したいと思っている人のアンコンシャス・バイアスを解く必要があると思っています。

若者にも根強いアンコンシャス・バイアスはあると思っています。なので、世代関係なく、アンコンシャス・バイアスを解くような動きが生めるよう、この場で議論を活発に行うことができれば良いと考えています。この取組みをきっかけに元気な日本、元気な地方、元気な鳥取をつくっていければいいのかなと思っています。若者 1 人としてこの場に積極的に参加させていただければと思っています。引き続きよろしくお祈りします。

#### **(櫻井政策戦略本部長)**

続いて女性活躍ネットワーク井中様お願いいたします。

#### **(井中女性活躍ネットワークメンバー)**

地方創生で若者にも女性にも選ばれるというところで、何か半分以上いる女性の代表して申し上げるのは大変おこがましいんですが、先ほどアンコンシャス・バイアスと言いましたが、若い



女性が何で帰ってこないかと言ったら、賃金の格差があるとか、やっぱり田舎にいると何となく、不自由だしもやもやしていて、それは思い込みかもしれませんが、やはり何となく息苦しさを感じる事が多分多いのではないかと思います。

それで、地方創生は、県民総プレイヤーと、今、位置づけられているそうですが、先ほど知事が言われましたように、小さな人口の鳥取で何かをしようと思ったら、みんなが頑張るしかない。それで誰かが何かをするのではなくて、みんなが頑張るにはもっと優秀な、魅力的な人材がたくさん埋もれております。特に女性はたくさんおられます。そういったいろんな方々を巻き込んでする地方創生が長続きする秘訣だと思いますし、例え一時的な施策によって若者が戻ってきたり、Iターンした、Uターンしてきた人も魅力がなければまた移動します。若い女性に聞いたのですが、女性だって自己表現とかやりがいがあったら、どこでも移り住むと言われました。

そういった中で、鳥取県で何をPRしていくのかというと、ただ、その土地で歳を重ね、地域の一員となっていくいきいきとして楽しげに暮らしてる姿を若者に見せるのもいいのではないかと思います。総理は楽しい日本と言われましたけど、第一、地方創生は地域に住む人間が楽しげにやってこそ価値があるんだと思いますし、やはりそうでなければ、多分一時的なものだと、地方創生になりませんし、長続きする秘訣ではないかと思います。

あと、最後にですが、この私の女性という立場から一言申し上げましたら、黄金の3割理論というのがございます。ハーバード大学の社会学者が言われたそうですが、組織の中で特定のグループ、今回は女性といたしますが、女性が15%以下だとその人たちはお飾りとか象徴になって、何か息苦しいとか、苦しみを味わうというふうに言われているそうです。私は結構少ない中に出て行くことが多いのですが、決して苦しくは思っておりませんが、ただ、実際には35%を超えると大体公平な機会が得られるという理論があるそうです。イギリスには30%クラブなんかあるといますし、実際には30%目標とされることが多いようです。

これからいろんな会が催されると思いますが、ぜひこの30%というのを思い出して、様々な県内にたくさんおられる人材、特に女性を、意見をいろいろ拾い上げていただけたらとうれしいと思います。以上でございます。

#### (櫻井政策戦略本部長)

このほか発言されていない方で御希望されれば挙手のほうをお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。看護協会の松本会長様をお願いします。

#### (松本看護協会会長)

鳥取県看護協会の松本でございます。このような機会をいただきましてありがとうございます。少子高齢化に伴って生産労働人口が減少する中で、人材確保はどの業界でも非常に深刻な課題であると思っておりますが、医療人材確保もとても苦慮しているところです。2040年には12人に1人の人が看護職を選んでいただかないと、今のような体制は維持できないと言われております。看護協会では、その人材確保・定着にも注力しておりまして、今、若者世代をいかに確保するか、ということで、高校生やもっと若い世代の人たちに看護の魅力を発信していこうとしております。ま

た、定年退職を迎える前後の年代の看護師をプラチナナースと呼んでおりますが、プラチナナースの活躍推進に、取り組んでいるところです。

県から委託を受けておりますナースセンターの体制強化を図ってこの辺の人材確保に努めていきたいと思っております。また、看護職の離職防止も大きな課題であり、働き続けられる職場づくりがとっても大切かなと思っております。コロナ禍を経て看護職に対して処遇面がいろいろ工夫されまして、令和6年度の診療報酬改定でも処遇改善が図られましたけれども、まだ、全部の看護職には及んでおりませんので、継続して処遇改善に努めていきたいと思っております。

あと1点は地域包括ケアシステムが推進されていく中で、住み慣れた地域で住み続けられるという目標に向けて取り組みが進められているんですが、それが困難な状況だになっていうのを痛切に感じております。特に中山間地域では老々介護であったりとか、独居の方が増えておりますし、訪問看護が、訪問しようにも到着までに時間を要するため経営的に困難な状況になるということもあります。この中山間地域の人たちへのケアも充実させていく必要があると思っております。とにかく県民の皆様が安心して暮らせるようなそういう体制づくりが必要なのではないかと考えております。ありがとうございました。

**(櫻井政策戦略本部長)**

薬剤師会の原会長お願いいたします。

**(原薬剤師会会長)**

薬剤師会の原でございます。今、薬剤師会としましては、地域住民の必要医薬品をいつでもどこでも誰にでも提供して県民の安心・安全な医薬品を使用できる体制づくりに取り組んでおりますが、今、問題になっておりますのが薬剤師不足と医療DX、薬局DXへの対応です。薬剤師不足に関しましては県の御支援と御協力いただき、薬学生が薬剤師業務を県内で体験していただくとか、薬学生サマーセミナーがありますが、それと高校生のための薬学部進学セミナーなどを開催しております。さらに県が大学との就職協定、支援協定などを締結していただき、大変県のほうには感謝しております。

医療DX、薬局DXの対応では、この医療DX、薬局DXで薬局間に格差ができたんじゃないかというふうなことも心配しております。電子処方箋の応需とか、電子お薬手帳、オンライン服薬指導などにこれから対応していかなければなりません、そのために薬剤師会では薬局間に格差ができないよう、デジタル推進委員会をつくり、県内の薬局の底上げをこれからしていきたいなと思っております。

オンライン服薬指導につきまして、パソコンとかスマホを活用して実施する服薬指導なんですが、例えば災害時、孤立した集落などにドローンで必要な薬を配送して、あとで、オンラインで服薬指導するっていうようなことも考えております。以上です。

**(櫻井政策戦略本部長)**

オンラインで御参加いただいている子ども家庭育み協会大橋会長様いかがでしょうか。

**(大橋子ども育み協会会長)**

私ども、育み協会は、会は県内の公私立の保育園、あるいは認定こども園で組織する団体です。そういう意味で、今まさに少子化で今後運営上のことも含めてなかなか大変な時代になったということで、これからどうするかというのを1つの大きな喫緊の課題にして取り組まなきゃいけないと思っています。ただ、鳥取県は以前から子育て王国ということを表されていますし、森のようちえんとかありますし、ある意味で子どもたちが育ついい環境にあります。そして、今言われています。子ども誰でも通園制度とか、国も保育園、あるいは認定こども園をいわゆる子育ても社会資源として活用しようというその方向をはっきり示してきました。

そういう意味で、従来のような機能に加えて育て支援、まさに子育てしやすいような環境を提供していくのが、今、我々に課せられた使命というふうに思っております。私のほうから以上です。

**(櫻井政策戦略本部長)**

それではここまでの皆様からの御意見を踏まえまして、平井知事から御発言をお願いします。

**(平井鳥取県知事)**

今日は忌憚のない御意見をいただきまして本当にありがとうございました。いろいろと目から鱗が落ちるようなお話もあり、やはりこうして皆さんで一堂に会して意見交換をすることから出発すること、それが大切だということを感じさせていただきました。先ほど、この会の進め方について一定程度それぞれ意見をまとめて出していき、それを共有してフィードバックしていくようなことも必要ではないかなどお話もございました。今後、幹事会のようなもっと掘り下げて時間をかけて議論をさせていただくところもつくらせていただいたり、そのように意見書をいろいろと出していただきながら取りまとめるということも含めましてやっていければと思います。

実は、国のほうが我々よりも一回り若干遅れて、今、動き始めていまして、私ども今日こうして発足をいたしました。国のほうの計画策定等は新年度のほうになってくるかと思えます。今日出てきた御意見をいろいろと今後もまた、集約させていただきながら計画づくりを本県としてもやっていくことにつなげていったり、いろんな行動を起していったり、アイデアをさらに引き出していければと思います。アンコンシャス・バイアスの話もいろんな観点で出ました。女性が30%社会に参画をするというようなことから始めていく、そのときに何かもやもやとした不安感や重苦しさがあるということです。それで、こういうのをもっと率直にほどいていくことはそんなに大きなハードルじゃないのかもしれない。

地域の中で何か役割分担がされていて、あれをしろというそういう暗黙の圧力がかかる、こういう声は若い女性からも大分頂いていまして、それが地域にとどまらない理由になっているということも聞きます。こうしたことも率直に皆様と職場やあるいは地域社会で何ができるのかを考えていけばいいのではないかとこのように思っていますし、若い方々が鳥取には働く場所とか、活躍する場所があるのに実は分からない、知らないというお話も相次ぎました。これは反省すべきこ

とかもしれません。

片方でももちろん産業の活力だとか、いろんな地域づくりのダイナリズムをつくっていく、これは従来にも増してやっていかないといけないと思うんですが、若い方々が求める情報が若い方々の伝達手段、今ではショートムービー、SNSとか、そうしたものが主流になっていますが、広報誌に載せるだけでは多分伝わらないわけであります。ふるさと教育なども重要なのだと思います。こんなようなことで、若い方々にも響くようなそういう運動展開をこれからぜひ、やっていく必要があるかなと思いました。

また、産業面での活力へ等でも皆伐再生林を広げていかなきゃいけないとか、農業に就業するにしても住宅の問題、これは地域社会と一緒にやっていかなきゃいけないことだと思います。そしてまた、様々な産業のアイデア、シーズというものを伸ばしていくことも必要でありますが、そこには例えば、地域に対する愛情だとか、コネクションだとか、ほかにはないそういうツールが私たち地域社会にはあるんじゃないか、こういう御指摘も相次いだわけであります。例えば、鉄道を活用して、もっと面白く行って見たくなる地域づくりってできるんじゃないか、利便性を高めることなどもあるんじゃないか、そんな観点で言えば、交通の方々にも今後加わっていただいたほうがいいのかもしれない。メディアを通じて域内での情報交流だけではなくて、県外からどうやってきていただけるように我々のほうでも情報発信を工夫していくのか、こういうような御指摘もございましたし、今日いろんな課題が見えてきたと思います。決して悲観することばかりではなくて、ものから心へと今、時代が移ろうとしているのかもしれない。そういう中であれば、ふるさとである鳥取、日本らしい日本がまだまだあって、楽しめる鳥取というのは開発の余地が十分あって発信できると思います。

ぜひ、今日発足した「令和の改新」県民会議、これを1つのベースとしまして、これに限らず様々な事業展開をしたり、コラボレーションやっていければと思いますので、どうか御協力をいただきたいと思います。大化の改新では様々な課題をやっつけようということで、蘇我馬子や入鹿が最終的には討ち果たされたということになりました。我々もいろんな課題、そがあな課題に討ち果たして行って、ぜひ、次の時代を開いて日進をしていきたいと思いますのでどうかよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

**(櫻井政策戦略本部長)**

以上をもちまして鳥取県「令和の改新」県民会議を閉じさせていただきます。